

事務事業名	白根桃源図書館子どもの読書活動推進事業		所属部局	教育委員会		単位番号	12466									
	☐ 実施計画事業		所属課室	市立図書館		課長名	深澤 知恵美									
			所属担当	白根桃源図書館		担当者名	上田 弥生									
基本政策	基本計画	V 個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目						
政策	計画体系	22 生涯学習ネットワークの整備充実	事業区分	01	一般	1	0	0	4	0	4	0	3	0	0	8
		35 生涯学習システムの推進														
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 15 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		法令根拠	図書館法 南アルプス市図書館条例												
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載			事業費の主な内訳 (22年度)												
				項目(細節) 金額(千円) 項目(細節) 金額(千円)												
				消耗品 25												
				食料費 5												
				計 30												

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	・おはなし会の開催・各種行事の開催 ・図書館見学・職場体験等の受け入れ
23年度活動予定	・おはなし会の開催・各種行事の開催 ・図書館見学・職場体験等の受け入れ
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
子どもとその保護者	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
本の楽しさを知り、本や図書館に親しむようになる。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
児童書の貸出冊数が増える。	

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア おはなし会の開催回数	回数
イ 各種行事の開催回数	回数
ウ 図書館見学・職場体験の実施回数	回数
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア おはなし会の参加人数	人数
イ 各種行事の参加人数	人数
ウ 図書館見学・職場体験の参加人数	人数
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 18歳以下の貸出点数	点数
イ 18歳以下の利用人数	人数
ウ	
⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 児童書の年間貸出冊数	冊数
イ	

(2) 事業費・指標の推移			単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	国庫支出金	千円							
		県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		一般財源	千円	31	30	30	30	30	30	
	事業費計 (A)			千円	31	30	30	30	30	0
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間	618	694	238	238	238	238	
		人件費計 (B)	千円	2,757	3,096	943	943	943	943	0
	(A)+(B)			千円	2,788	3,126	973	973	973	0
活動指標	ア	回数		45.0	52.0	52.0	52.0	52.0	52.0	
	イ	回数		12.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	
	ウ	回数		7.0	5.0	7.0	7.0	7.0	7.0	
対象指標	ア	人数		663.0	1,348.0	1,415.0	1,485.0	1,559.0	1,636.0	
	イ	人数		767.0	1,383.0	1,452.0	1,524.0	1,600.0	1,680.0	
	ウ	人数		23.0	9.0	9.0	10.0	10.0	11.0	
成果指標	ア	点数		12,781.0	12,166.0	12,530.0	12,905.0	13,292.0	13,690.0	
	イ	人数		2,415.0	2,676.0	2,756.0	2,838.0	2,923.0	3,010.0	
	ウ									
上位成果指標	ア	冊数		24,506.0	24,178.0	24,903.0	25,650.0	26,419.0	27,211.0	
	イ									

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等	
① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	開館後の平成4年から「おはなし広場」、平成11年から「おはなし会」をスタートした。平成15年の合併後も、子どもたちに本の楽しさを伝え、読書に親しんでもらえるようにするために継続している。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	白根地区ばかりでなく市内から多くの親子が参加してくれるようになった。また、読書まつりやクリスマス会、夏休み子ども教室などは定着し、毎年多くの子どもたちが参加してくれるようになった。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	行事の参加者からは、参加してよかったという感想が多く寄せられている。これからも図書館で企画するさまざまな行事に参加したいという人がほとんどである。

(4) 改革改善の取り組み状況	
① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	定例のおはなし会以外に、年間を通してさまざまな行事を企画し、多くの子どもたちがそれをきっかけに本に親しんでくれるように内容を工夫している。また、保育所などに出向いてのおはなし会もおこない、図書館を身近に感じて来館してくれるように働きかけている。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	・平成22年4月に白根児童館がすぐ隣に開館したのできっかけに、児童館の多目的スペースを利用して図書館の「春の子ども読書まつり」を白根児童館と合同で実施し、多くの参加者を得た。

事務事業名	白根桃源図書館子どもの読書活動推進事業	所属部	教育委員会	所属課	市立図書館
-------	---------------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 南アルプス市の子どもたちが生涯を通じて読書に親しめるようにするために、子どものころから読書活動に対する働きかけが必要である。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 市の「子どもの読書活動推進計画」を進めるために、必要な事業である。
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 市の「子どもの読書活動推進計画」を推進していくためにも、子どもの発達段階に応じた読書支援は、将来にわたり維持・継続する必要がある。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 ・児童館と連携を取り合って事業をおこない、参加者を増やしていく努力をする。 ・さまざまな行事を通して、読書の楽しさを子どもたちに知ってもらうために、今以上の創意工夫をおこなっていく。
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 子どもたちが徒歩や自転車であって、各種の行事に参加してもらうには、地域の図書館ごとに開催することが一番良い。 ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 子どもの読書活動推進のための各種事業が廃止されると、子どもたちやその保護者に読書楽しさや図書館の良さを伝えることができなくなる。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 市の子どもの読書活動推進計画を進めていくためにも、事業の廃止はできない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 年間3万円の事業費の中で、さまざまな行事を工夫しておこなっているので、これ以上の削減は無理である。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 平成22年度までは正規職員2人と常勤の臨時職員2人で業務をおこなってきたが、平成23年度からは正規職員1人と常勤の臨時職員2人の計3人で運営しているので、これ以上の削減は無理である。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 より多くの子どもたちが図書館の行事に参加して、本の楽しさを知り図書館に親しんでもらえるように、広報等で周知していく必要がある。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	・児童館との連携を行い事業の成果が出ているが、更に広報活動を行い、より多くの子どもたちが事業に参加できるよう周知方法の工夫が必要である。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table>				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について		※ 廃止・休止の場合は記入不要																						
①より多くの子どもと保護者が事業に参加できるように、学校や保育所、児童館などと連携して周知の方法を工夫する。 ②白根児童館と連携を取り合い、事業の合同開催などをおこなっていく。 ③		(5) 事務事業優先度評価結果																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		成果優先度評価結果	⑤																					
①行事のポスターを学校・保育所・児童館などの関係機関に掲示してもらうとともに、家庭へのチラシの配布をお願いする。 また、関係諸機関へのおはなし会の出張サービスも積極的に行い、子どもの読書活動を推進していく。 ②児童館と定期的に打ち合わせを行い、合同開催のできる事業について検討しながら実施していく。 ③		コスト削減優先度評価結果	⑨																					